

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和3年3月15日

事業所名 こども支援センターえがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用人数の増加に伴い、1対1での個別課題では部屋数が足りなかったため、指導訓練室②もパーティションで区切り空間の確保を工夫している。利用人数や活動内容によって、ねらいを持ち遊戯室に関しても空間を仕切り適切な空間の広さ、更衣室を設置する工夫をしている。</li> <li>・人数に合わせてパーティションを使用し部屋の環境を合わせている。</li> </ul>	
	2	職員の配置数は適切である	9	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別課題や提供記録の記入時は、児発職員がその場から離れる為、見守り不足の状態になる。その為、放デイや看護師、PTなど様々な職員に協力してもらいながら支援・見守りを行っている。</li> <li>・契約職員が多いため正職が負担になっている。</li> <li>・見守りの数も人数を見ながら配置しており、職員間で声掛けしながら退室をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負担になっている事を検証し、業務の見直しを図ります。</li> </ul>
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに何の部屋かマークがあり、自分のマークがあるため移動しやすい。</li> <li>・利用されている子どもさんの特性に合わせながら、職員間で環境設定の見直しが必要な時はどのように改善すると良いか話し合い改善し、改善した部分はどうかの振り返りを行うなど行っている。</li> <li>・視覚的に分かりやすいように動物のイラストが貼ってある部屋に設定し、トイレの環境では脱ぐ場所、履く場所が明確に分かるように整えられている。</li> </ul>	

環境・体制整備	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコロナ過やインフルエンザ感染予防として、換気などこまめに行えるよう忘れていないか、職員間で声をかけ合い行った。</li> <li>・毎日の掃除を行い消毒も欠かさずしている。廊下に冷暖房が設置されていないため、子どもが立ち止まってしまう姿が見られる。</li> <li>・活動や子どもの状況などに合わせ、使用する部屋や広さを変えている。</li> </ul>	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15	1	毎日の日案にねらいをもって活動を考え、療育の振り返りを必ず行っている。改善できるところや課題を記録して、同じ活動時には見直しをしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	2		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	8	・まだ受けていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15	1	・より視覚支援、療育の知識を学ぶため研修に参加し、何をいつまでに実行するかを明確にし活動に取り入れている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	15	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時の保護者の意見も児童管と情報共有し、ニーズや課題を記録している。</li> <li>・6か月ごとに担当が保護者に子どもの様子を伝え、継続か達成を伺う。</li> </ul>	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	16	0		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の評価を毎日行い、日々子どもの成長を記録している。連続でご利用している方も、毎日同じ内容の支援でなく少しずつ内容をかえている。</li> </ul>	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動プログラムは利用人数や成長、また特性や課題に合わせてねらいを持ち、相談し合いながら立案をする工夫をしている。</li> <li>・同じ活動でも内容やねらいを変え、子ども達が期待をもって活動に参加できるように、毎日の振り返りでスタッフに伝達している。</li> </ul>	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日固定(年間)で主活動を担当が立案すると、他の曜日のイメージが立てづらい為、今年度は曜日固定(月単位)にすることで偏りなどないよう立案の担当曜日を変更する工夫をおこなった。</li> <li>・同じ活動でも子どもの特性や動き等で道具をかえたり、環境設定を変更し同じプログラムにならないように配慮している。</li> <li>・月の予定や日案を立てる際、子どもの様子を考えながら計画している。</li> </ul>	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の時間、集団活動の時間がわかれている。集団の中にも貸し借りや友達とのかかわり方等、個別内容も入っている。</li> <li>・担当人数、活動の流れ、記録に追われ個別活動が少なく、もっと時間をかけてやりたいと思うことが多い。</li> </ul>	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼にて話している。</li> <li>・役割、担当、支援内容、ねらいは全て連絡会で伝え、統一した対応ができるように話し合いをもっている。</li> </ul>	

適切な支援の提供	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの時間では反省点、改善点を細かく話し合い、記録を行い次回の活動を計画する際に参考にしている。</li> <li>・放デイ職員は入っていない。</li> <li>・契約職員や放デイからの支援職員とは気づいたことも伝わっていない。</li> </ul>
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提供記録、毎日の計画に対する評価、月評価を行い子どもの少しずつの成長を記録している。</li> </ul>
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	16	0	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会議に参加し、動画をを用いて分かりやすく、子どもの成長を保護者に伝えられるように心がけている。</li> </ul>
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	15	1	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ケア児は利用していないが看護師配置をしており、行政とも連携をとっており受け入れ体制は整えている。</li> </ul>
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9	4	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15	0	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てファイル福井つこを作成し、移行支援で情報提供できるようにしている。</li> </ul>
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	2	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自体は園に通っているし保育所支援訪問もあるが、センターとして関わることはない。</li> </ul>

関係機関や保護者との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	7		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16	0	・提供記録や朝の登園時、お迎え時に出来事や相談を受けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	10	6	・ケース会議で兄弟支援の大切さや、児のいいところ探しの視点を伝えている。 ・提供記録や送迎時、保護者と話をしている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16	0	・電話や提供記録、送迎の際に保護者に今日の様子を伝え、悩みを聞いたり助言を返したりしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	11	・コロナのためしない方が良い。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	16	0	・相談や申し入れに迅速に対応するが大変な面もある。	・迅速に対応する事は基本と考えているため、今後は職員全体に情報や対応方法等がいきわたるように努めていきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16	0		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	14	2	・注意していたが写真のミスがあった。	・個人情報同意書の一覧表を職員に提示し、それを基に予定表等を作成するように伝えた。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15	0		
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	8			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	1	・マニュアルの内容までは保護者には伝えていない。 ・月に1回、緊急時(地震、火災、防犯)想定訓練を実施している。	・事業所の玄関に防災関係のマニュアル等を提示し、保護者の方に周知できるようにしていきます。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪の日には朝に非常口の除雪を行い緊急時に備えている。</li> <li>・火災や地震想定 of 訓練はしているが、洪水等はしていない。引き渡し訓練の書類は整えたが訓練はまだ実施できていない。</li> <li>・いろんな非常、災害を取り入れ訓練をしている。</li> </ul>	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師より報告やマニュアルでの伝達があり、服薬時にも職員の二重チェックで飲み忘れがないように確認している。</li> <li>・どの子が何の薬を飲んでいるのか全く把握できていない時がある。</li> </ul>	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食札にアレルギーの掲示を行い、おかわりの際にも間違いがないようにしている。</li> </ul>	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例集は作成していないが、事故予防委員から報告があり共有している。</li> </ul>	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	3		